# 科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 30 年 2月 21 日現在

機関番号: 32669

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2014~2016

課題番号: 26450434

研究課題名(和文)犬がんペプチドワクチンのためのDLA-88型検査の確立

研究課題名(英文) Establishment of DLA-88 typing for canine cancer peptide vaccine

#### 研究代表者

塚田 晃三 (Ohkusu-Tsukada, Kozo)

日本獣医生命科学大学・獣医学部・准教授

研究者番号:90304930

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文):マウスモデルにおいて精神的ストレスの影響によって誘導されるがんの肺転移がペプチドワクチンで防止できることから、がん再発・転移防止に重点を置いた新しい治療戦略として、犬のがんペプチドワクチンの開発を進めている。本研究では、1)細胞傷害性Tリンパ球 (CTLs)誘導能を有する犬のがん特異的ペプチド(melan-A、TRP-2、survivin)を検出し、2)犬のMHC class I (DLA-88)型タイピングにより、DLA-88型に適合するがん関連抗原ペプチドを同定することに成功した。

研究成果の概要(英文): Because the lung metastasis of cancer that is induced depending on the effect of psychological stress was able to be prevented by a peptide-vaccine in mouse model, the development project of a peptide-vaccine using dog is advanced as the new strategy for treatment by which targeted the prevention of the recurrence and metastasis of progressive cancer. This study succeeded in finding of the canine peptide epitope (melan-A、TRP-2、survivin) for inducible specific cytotoxic T lymphocytes (CTLs),1) and had arrived in the detection of the those peptides-restricted specific canine MHC class I (DLA-88) types identified by DLA-88 gene typing.2)

研究分野: 免疫学、獣医病理学

キーワード: DLA-88型 犬メラノーマ melan-A TRP-2 survivin 犬がんペプチドワクチン

#### 1. 研究開始当初の背景

犬の悪性腫瘍のうち、口腔内メラノーマは 浸潤性が強く予後不良で、このタイプの腫瘍 では下顎(又は上顎)ごとの外科的切除は著 しい QOL 低下を招くため、多くのケースで放 射線療法や化学療法に頼る傾向がある。しか し、第一選択治療で一時的に縮小できても再 発・転移することがあり、その再発がんのほ とんどが同じ治療に対して耐性を示すことが 多い。

がんペプチドワクチンは、がん細胞の主要組織適合性複合体(MHC) class I に提示されているエピトープと同じアミノ酸(AA)配列の合成ペプチドを皮膚にワクチン接種することで、皮膚の樹状細胞に抗原提示され、生体内でがん特異的細胞傷害性 T リンパ球(CTL)を誘導し、がん細胞を排除することを期待した治療法の1つである。マウスを用いた実験報告やヒトでの多数の症例報告があるが、犬では MHC class I 情報が少ないため、犬での実施報告はない。

犬メラノーマに対するペプチドワクチンの 実施のため、DLA-88型に適応したワクチン用 抗原ペプチドを同定する必要がある。犬メラ ノーマに高発現する蛋白質として、melan-A、 TRP-2 の他、多くの腫瘍に発現する survivin がある。Survivinは、犬では、リンパ腫、鼻 腔腺癌、メラノーマ、悪性組織球腫、乳腺癌、 骨肉腫、非小細胞肺癌、扁平上皮癌、膀胱移 行上皮癌、血管肉腫、肥満細胞腫で高発現す ることが報告されている。犬における melan-A は118個のAA、survivinは142個のAAと短 いが、TRP-2は548個のAAと比較的長いため、 犬の MHC class I (DLA-88) 型に提示されう る特異的エピトープの数は melan-A や survivin より多いことが期待される。これら の蛋白質はがん細胞の細胞質内の営みに利用 されるが、古くなった蛋白質はプロテアソー ムにより分解され、小胞体に入り、丁度良い 9個の AA 配列を有するペプチドが MHC class I 分子と組み合わさることで、ゴルジ装置を 介して細胞表面に発現され、がん関連抗原と して CTL に認識される。この仕組みは、ほと んどのエピトープは自己抗原として提示され るが、生体の胸腺組織における自己反応性 T 細胞の排除機構により、自己抗原を認識して 細胞傷害性を発揮する細胞は削除されており、 in vitro の系においても増殖活性を示すことは ほとんどない。

ヒトでは、HLA 型-A 座、-B 座、-C 座が知られ、特に A 座の内、A\*0201 又は A\*2402 の型を有する日本人は全人口の約 80%に相当することから、HLA-A\*0201 又は A\*2402 に絞って、これらの型に適合するがん抗原ペプチドの開発が行われている。しかし、犬の MHC class I 情報は少なく、以前より、犬では DLA型-12 座(3 種類)、-64 座(3 種類)、-88 座(56 種類)、-79 座(12 種類)が知られているが、これらの役割などはよくわかっていない。これらの内、DLA-88 座のみが多型に富み、現在

では我々の新規 DLA-88 型を含めると 124 種類に及ぶ型が明らかになりつつある。また DLA 型-88 座はヒトの HLA 型-A 座と類似する点が示唆されている。

## 2. 研究の目的

本研究は、がん罹患犬の DLA-88 座情報を基に、それに適合するがん抗原ペプチドのワクチン療法、即ち犬の個体ごとに適応した免疫療法の実施に向けたがん抗原エピトープとそれを提示する DLA-88 型を明らかにすることを目的とする。

がんペプチドワクチンの利点は、活性化リンパ球療法や樹状細胞療法の様に培養設備を必要としない点にあり、皮膚にワクチン接種するだけの簡便さで、一般診療の獣医師に普及させることが期待される。

## 3. 研究の方法

犬末梢血は大学附属動物医療センターよ り検査後の余剰分を入手し、その末梢血単核 球 (PBMC) から磁気ビーズ抗体を用いて CD8 陽性T細胞とプレート接着細胞に分離後、プ レート接着細胞に犬リコンビナント GM-CSF と合成ペプチドを添加して抗原提示細胞 (APC) へと分化誘導させた。90 分後に X 線 照射により増殖活性を消失させた APC と精製 した CD8 陽性 T細胞を混合培養し、10 日前後 で誘導されるCTLの有無を経時的に鏡検した。 入手した検体の血液量および精製した CD8 陽 性T細胞の数に応じて、実施する項目数を調 整した。これらの活性の見られた検体からゲ ノム DNA を精製後、DLA-88 型の exon 2-3 領 域をシークエンスし、タイピングを行った。 このようにして、予め用意したペプチドにつ  $V \subset \text{melan-A (mel-01, mel-41, mel-70,}$ mel-88, mel-95, mel-109) (表 1 ) 、TRP-2 (tp-1, tp-2, tp-3, tp-4, tp-5, tp-6, tp-7, tp-8, tp-9, tp-10, tp-11, tp-12), survivin (sv-01, sv-10, sv-19, sv-59, sv-88, sv-90) に反応したそれぞれの DLA-88 型を調べた。

## 表1 Melan-A合成ペプチドのアミノ酸配列

Melan-A	AA sequence
ml-01	MPREEAHFI
ml-41	LLIACWYCR
ml-70	LRGRCPHEG
ml-88	FQESNCELV
ml-95	LVVPNAPPA
ml-109	AEQSSPPYL

# 4. 研究成果

大メラノーマの免疫療法の1つ、がんペプチドワクチンの3つの抗原(Melan-Aペプチド 6本、survivinペプチド 6本、TRP-2ペプチド 12本)について、現在まで犬血液 687検体について解析したところ、Melan-A;66検体、survivin;81検体、TRP-2;64検体にペプチド活性を認めた(図1)。

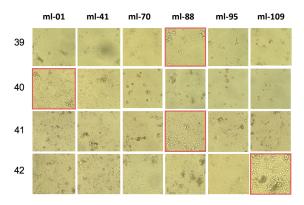


図1 Melan-Aペプチド活性のスクリーニングの例

1) Melan-A について DLA-88 型のタイピングを終え、犬種、DLA-88 型、6種ペプチドの活性を記載した表が完成した(表 2)。3回以上の頻度で検出された DLA-88 型は、高親和性を示す 003:02、017:01、501:01、028:01、029:01、508:01、nov15\*、nov25\*の8種と、2回の頻度で検出された DLA-88型は、低親和性を示す 001:03、004:02、005:01、006:01、012:01、032:01、051:01、502:01、nov6\*、nov8\*、nov9\*、nov17\*、nov24\*の13種が判明した。(\*;新規については系統樹解析により明らかにされる予定である)

表 2 Melan-A 合成ペプチドの DLA-88 型適合表

本数							DLA88	型:21 個	
6	ml-01	ml-41	ml-70	ml-88	ml-95	ml-109	003:02	017:01	
6	ml-01	ml-41	ml-70	ml-88	ml-95	ml-109	501:01		
5	ml-01		ml-70	ml-88	ml-95	ml-109	508:01		
4			ml-70	ml-88	ml-95	ml-109	006:01		
3	ml-01	ml-41		ml-88			029:01		
3	ml-01		ml-70	ml-88			nov25		
2			ml-70			ml-109	001:03		
2	ml-01		ml-70				005:01		
2	ml-01	ml-41					012:01	028:01	
2		ml-41				ml-109	nov8	502:01	
2			ml-70	ml-88			nov15		
2		ml-41	ml-70				nov17		
1	ml-01						051:01	nov24	
1		ml-41					004:02	032:01	nov6
1					ml-95		nov9		

- 2) 表 2 に示すように、Melan-A ペプチド ml-01、ml-41、ml-70、ml-88、ml-95、ml-109 を抗原提示できる DLA-88 型を特定することができた。例えば、DLA-88\*003:02 型、DLA-88\*017:01 型、DLA-88\*501:01 型はこれら6つのペプチド全てを提示できる型であるので、これら6つのペプチドをがんワクチンとして用いることができる。
- 3) 一方、DLA-88\*501:01 型は ml-41 以外の ml-01、ml-70、ml-88、ml-95、ml-109 を抗原 提示できるので、これらの5つのペプチドを がんワクチンとして用いることができる。同様に、DLA-88\*006:01 型には ml-70、ml-88、ml-95、ml-109 を、DLA-88\*029:01 型には ml-01、

ml-41、ml-88 を、DLA-88\*001:03 型には ml-70、ml-109 を、というようにそれぞれの DLA-88 型に適応したペプチドをがんワクチンとして用いることができる。

このように本研究は、犬のDLA-88型情報に基づいたがん抗原 Melan-A の特定のペプチド配列との組み合わせを明らかにした点にあり、犬のメラノーマに対する免疫療法を実施する上で、予めDLA-88型を検査した後、その型に適合する特定のペプチド配列がある場合に有効なワクチンとして用いることができる。

また、Survivin についても同様に解析した 結果、合成ペプチド特異的に活性を示す DLA-88型を以下に示す。

表3 Survivin 合成ペプチドのアミノ酸配列

Survivin	AA sequence
sv-01	MGAPTLPPA
sv-10	WQPFLKDHR
sv-19	ISTFKNWPF
sv-59	FCFKELEGW
sv-88	SVKKQFEEL
sv-90	KKQFEELTLG

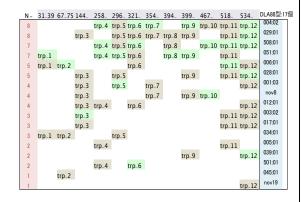
表 4 Survivin 合成ペプチドの DLA-88 型適合表

N		1 0	10 10	10 27	FO 67	99.06	00.00	DI AGG	FII.01/FI
N -	-	1_9	10-18						¥:211回
		sv_01	sv_10	sv_19	sv_59	sv_88	sv_90	501:01	
6		$sv_{-}01$	sv_10	sv_19	sv_59	sv_88	sv_90	508:01	
5			sv_10	sv_19	sv_59	sv_88	sv_90	034:01	
4		sv_01			sv_59	sv_88	sv_90	003:02	017:01
4		sv_01	sv_10	sv_19			sv_90	006:01	
4		sv_01	sv_10		sv_59		sv_90	012:01	
4		sv_01	sv_10		sv_59	sv_88		029:01	
4		sv_01	sv_10		sv_59	sv_88		028:01	
3				sv_19		sv_88	sv_90	nov25	
3		sv_01	sv_10		sv_59			004:02	
2			sv_10				sv_90	502:01	
2		sv_01	$sv_{-}10$					nov3	
2		sv_01				sv_88		045:01	
1				sv_19				002:01	
1							sv_90	001:03	nov4
1			sv_10					012:02	
1						sv_88		nov18	
1		sv_01						nov37	
1		sv_01						038:01	

また、TRP-2 についても同様に解析した結果、 合成ペプチド特異的に活性を示す DLA-88 型 を以下に示す。

表 5 TRP-2 合成ペプチドのアミノ酸配列

TRP-2	AA sequence
trp-1	AMSPLGWGL
trp-2	MAKECCPPL
trp-3	WTGHDCNQR
trp-4	LERDLQQLI
trp-5	ARQDDPTLI
trp-6	DDYNRRVTL
trp-7	KDIQDCLSL
trp-8	SQVMSLHNL
trp-9	LHNLVHSFL
trp-10	FPPVTNEEL
trp-11	VLFFLQYRR
trp-12	LMETHLSDR



5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

- 1) <u>Ohkusu-Tsukada K</u>, Ito D, Okuno Y, Tsukada T, Takahashi K. Signs of atopic dermatitis and contact dermatitis affected by distinct *H2*-haplotype in the NC/Nga genetic background. *Scientific Reports* 2018. 8: 2586 查 読 有 doi:10.1038/s41598-018-21049-x
- 2) Ohkusu-Tsukada K, Yamashita T, Tsukada T, Takahashi K. Low expression of a  $D^{dm7}/L^{dm7}$ -hybrid mutant ( $D/L^{dm7}$ ) in the novel haplotype H-2<sup>nc</sup> identified in atopic dermatitis model NC/Nga mice. *Genes and Immunity* 2018. 査読 有 doi:10.1038/s41435 -017-0003-y.
- 3) Ohkusu-Tsukada K, Tsukada T, Takahashi K. Clonal deletion of T cell repertoires with specific T cell receptor Vβ chains by two endogenous superantigens in NC/Nga mice. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry 2017. 81: 2160-2163. 查読有 doi:10.1080/09168451.2017. 1374829.
- 4) Machida Y, Michishita M, Wada M, Hori T, Kawakami E, Yoshimura H, <u>Ohkusu-Tsukada K</u>, Taya K, Takahashi K. Malignant Oestrogen -producing Teratoma in a Cat. *J Comp Pathol*. 2017. 156(2-3):178-182. 查読有doi:10.1016/j.jcpa.2016.11.273.
- 5) Nakahira R, Yoshida R, Michishita M, Ohkusu-Tsukada K, Takahashi K. Effect of Gonadectomy on the Androgen-Dependent Behavior of Ganglion Cell-Like Cells in Djungarian Hamsters (Phodopus sungorus). Comp Med. 2016. 66(1): 25-9. 查読有http://www.ingentaconnect.com/content/aalas/cm/2016/00000066/00000001/art00004
- Arai K, Kobayashi M, Harada Y, Hara Y, Michishita M, <u>Ohkusu-Tsukada K</u>, Takahashi K.

- Histopathologic and immunohistochemical features of soft palate muscles and nerves in dogs with an elongated soft palate. *Am J Vet Res.* 2016. 77:77-83. 查読有 doi:10.2460/ajvr. 77.1.77.
- 7) Kishimoto TE, Yoshimura H, Saito N, Michishita M, Kanno N, <u>Ohkusu-Tsukada K</u>, Takahashi K. Salivary Gland Epithelial -Myoepithelial Carcinoma with High-Grade Transformation in a Dog. *J Comp Pathol*. 2015 153(2-3): 111-5. 查読有 doi:10.1016/j.jcpa.2015. 06.006.
- 8) Yoshimura H, Kimura-Tsukada N, Ono Y, Michishita M, <u>Ohkusu-Tsukada K</u>, Matsuda Y, Ishiwata T, Takahashi K. Characterization of Spontaneous Mammary Tumors in Domestic Djungarian Hamsters (Phodopus sungorus). *Vet Pathol.* 2015. 52(6):1227-34. 查 読 有 doi: 10.1177/0300985815583097.
- 9) Yoshimura H, Michishita M, <u>Ohkusu-Tsukada K.</u> Matsuda Y, Ishiwata T, Naito Z, Takahashi K. Cellular sources of tenascin-C in canine mammary carcinomas. *Vet Pathol.* 2015. 52(1): 92-6. 查読有 doi: 10.1177/0300985814522817.
- 10) Yoshimura H, Nakahira R, Kishimoto TE, Michishita M, Ohkusu-Tsukada K, Takahashi K. Differences in indicators of malignancy between luminal epithelial cell type and myoepithelial cell type of simple solid carcinoma in the canine mammary gland. *Vet Pathol.* 2014. 51(6):1090-5. 查読有 doi: 10.1177/0300985813516637.

#### 〔学会発表〕(計5件)

- 1) Ohkusu-Tsukada K, Ito D, Okuno Y, Takahashi K. The novel H-2 haplotype related with the high sensitivity to 2,4-dinitro fluorobenzene-induced dermatitis in NC/Nga mice.第45回日本免疫学会学術集会 沖縄コンベンションセンター2016-12-7
- 2) 吉村久志、吉田彩花、山本昌美、松田陽子、石渡俊行、道下正貴、<u>塚田晃三</u>、高橋公正 イヌの乳腺腫瘍における nestin の発現と悪性度との相関 第3回日本獣医病理学専門家協会学術集会 三鷹市公会堂 2016-03-30
- 3) <u>塚田晃三</u>、伊藤大貴、奥野祐樹、山下匡、塚田晃代、高橋公正 NC/Nga 系におけるユニークな H-2 ハプロタイプとアトピー性皮膚炎発症との関連性について 第 158 回日本獣医学会学術集会 北里大学獣医学部 2015-09-09
- 4) <u>塚田晃三</u>、山下匡、塚田晃代、中平嶺、道 下正貴、高橋公正 NC/Nga 系におけるユニー クな H-2 ハプロタイプのアロ反応と OT-II

TCR の I-A<sup>k</sup> 拘束性 <sub>323-339</sub> クロス反応 第 157 回日本獣医学会 北海道大学 2014-09-12

5) <u>塚田晃三</u> がん微小環境における免疫病態 第3回動物臨床免疫療法研究会 大阪府立大学りんくうキャンパス 2014-10-04

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況(計1件)

名称: 犬の DLA-88 型適合性がんペプチド

発明者:塚田晃三

権利者:(学)日本医科大学

種類:特許番号:未公開

出願年月日: 2017年11月11日

国内外の別:国内

○取得状況(計0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号: 取得年月日:

取得年月日: 国内外の別:

[その他]

ホームページ等

http://www.nvlu.ac.jp/veterinary-medici
ne/members/005.html/

- 6. 研究組織
- (1)研究代表者

塚田晃三 (TSUKADA Kozo)

日本獣医生命科学大学・獣医学部・准教授 研究者番号:90304930

(2)研究分担者

)

研究者番号:

(3)連携研究者

カル 71.7日 ( )

研究者番号:

(4)研究協力者

森友忠昭(Moritomo Tadaaki)

日本大学・生物資源学部・獣医免疫学研究 室・教授

宮前二郎 (Miyamae Jiro)

日本大学・生物資源学部・獣医免疫学研究 室・大学院生

竹嶋伸之輔(TAKESHIMA Shin-nosuke)

理化学研究所・分子ウイルス学特別研究ユニット・研究員/東京大学大学院 新領域創成科学研究科・メディカル情報生命専攻・ 感染制御分子機能解析分野/客員准教授